

いきいき

4つの力を育てる

富岡小学校では、予測が難しい時代をたくましく生き抜く力を育てるために、教科で身につける学力はもちろんのこと、テストでは測れないけれど大切な力（非認知能力）の育成に取り組んでいます。学んだことを使ってさらに学びを深められるたくましさを身につけるために、ご家庭でも、お子様の成長の視点としてご理解ください。

自分で考えて答えをもつ力

考えるとは「正しい答えを出すこと」だけではありません。学校を含め、社会で生じる問題に対する解決の方法は一つではないからです。その上で、子どもが自分の考えをもつためには、安心して考えをもつことができる環境が必要です。仲間が聞いてくれるという安心感は、自分の意見を発言する不安を取り払います。考えを深めるためにも、周りの人の考えを知ることが大切です。周りの考えを知り、理解するためにも、人の話に耳を傾けて聞くという力が必要になります。

自分と人を大切にできる力

富岡小の教室に掲げられた約束は、「自分がされていやなことはしない。自分が言われていやなことは言わない。」ですが、時折、子どもたちは失敗をします。相手を傷つけることもあり、丁寧に謝罪をすることを指導します。しかし、謝っても心の傷は治らない場合があることも知らなければなりません。だから、間違いをしたときは、相手の立場で考えることが大切だと教えています。トラブルが発生した時、双方から話を聞いてお互いの本音を教師が通訳し、やり直す方法を見つけさせます。失敗は過ちではなく、成長に欠かせない経験であり、学びの場なのです。

自分を表現できる力

子どもたちは、授業で、朝の会で、帰りの会で、自分の考えを表現します。それは言葉だけではありません。子どもたちは、言葉を使わなくても、考えたことを表現できることを知っています。職員室前の廊下には、絵で描かれたメッセージが掲示されています。思っていること、考えたこと、こうなってほしいという願いなどをいろいろな方法で、伝えることができるのです。表現することを知ると、他の人の表現にも注意を払うようになります。仲間の表現に気付く（聞く・見る・知る）ことが大切だと気付きます。それは、他者を尊重することにもつながります。

あきらめず挑戦する力

人は失敗を叱られると、失敗を回避する方法を考えるようになります。しかし、失敗を恐れ、挑戦することも避けるような子どもには、育てたくはありません。失敗しないことも大事ですが、ピンチを切り抜ける力を身につけることが大切です。失敗をしたとき、ダメだとあきらめるだけでなく、もう一度挑戦できるかどうかを考えることが大切です。どんな失敗でも、やり直す方法を考えて行動することで、状況をよりよくしようとす力を身につけさせていきたいと思います。



R3年度 全力富小運動会より

命を守る訓練の実施

4月15日、全校児童が参加して命を守る訓練を実施しました。地震と火災を想定した訓練を通して、災害時の身の守り方と教室から避難をする方法を学びました。地震発生の緊急放送には、机の下に身を隠して守り、避難の指示で素早く運動場に移動することができました。地震はいつ起こるかわからない災害ですが、訓練を通して対処の仕方を知ること、命を守る方法を身につけることができます。真剣に訓練に臨む姿は、いざという時にも行動できる力になるでしょう。

